

特集！2024年度ブロック学習交流集会

中国・四国・九州ブロック学習交流集会

2024/8/10～11
(山口県長門市・萩市)

中国・四国・九州ブロック学習交流集会は、6組織20名がつどい、大盛況のうちに終わりました。

実習教員には様々な専門がありますが、今回会場となった長門市、大津緑洋高校水産校舎では、文字通り「水産」を専門とする高校でした。当然、水産高校ならではの実験・実習教育の内容やダイビングプールでの実演など、普段目にするのことがない光景は、参加者の興味・関心を常に引き付ける、大変勉強になる見学でした。次に、実習教員における制度改革を進めていくにあたり、現状を学ぶ「これまで」と「これから」を考えていく、大変考えさせられる学習会となりました。

また、萩市という歴史や文化に触れながら、時代を切り開く、実教部にとって維新の風を感じた集会になったのではないのでしょうか。主催してくださった山口高の皆さま大変お世話になりました。来年度は香川県での開催を予定しています。たくさんの参加をお待ちしております。



近畿ブロック学習交流集会

2024/11/4
(大阪府大阪市)

近畿ブロック学習交流集会（近高連第38回実習教員部1日交流集会）はたかつガーデンにて5組織15名が参加しておこなわれました。

午前中は、採用試験の実施状況や課題について交流をおこないました。「県での活動が停滞していて困っている」「何年かぶりに採用試験がおこなわれた」「給与について前進があった」などの状況や課題が各府県から報告がありました。



午後は、制度改検討委員会からこれまでの経過が報告されました。続けて、全国学習交流集会で報告された「実習助手」制度改革についてのスライドを見て、冊子「あれやこれ」を利用して意見の交流をおこないました。

「自分たちが置かれている状況がよくわかった」「教科ごとに仕事内容が違うことがよくわかった」「職業科は制度が整備されていて差があると感じた」「教諭の先生よりも頑張ってきた自負もあるが、待遇に不満はある」など感想が寄せられました。

参加者全員が長年の経験や制度改革に対する考えなどを発言し、多く意見を聞くことができ良い交流会となりました。



北海道・東北ブロック学習交流集会

2024/11/9

(秋田県大仙市)

北海道・東北ブロック学習交流集会は、秋田高教組青年部企画のレク「米道（まいうえい）」とのコラボにより秋の色づきが濃くなった11月9日、秋田県大仙市の県立農業科学館で開催され総勢3組織14名が集いました。

初めに「米道（まいうえい）」として、地元の大曲農業高校で生産された教育用栽培のお米「サキホコレ」をはじめ、何種類かのお米を炊いて昼食を摂りながら、農業高校の実習の様子に触れながら交流を深めました。その後

「実習教員部学習交流集会」を開催、青年部の皆さんにも一緒に参加していただき、各道県での実習教員部運動のとりくみや、実験・実習にかかわる資格取得について個人負担の問題、事故や怪我の防止に向けた条件整備、実習教員の職務内容、賃金、採用形態、人事異動、研修などの待遇改善に関する要求項目の情報交換をおこないました。

続いて全教実習教員部より、「『これまで』と『これから』の実習教員部運動を考えていく」と題して、実習教員が置かれている法的な位置付けの矛盾点について説明をおこない、実習教員が置か



れている制度上の曖昧な位置付けや、校種の違いによる勤務条件の違いは、実習教員の問題だけでなく、今日の青年教職員の働かされ放題にも似通った問題があることを参加者全員で学習しました。

ブロック集会の成功に向けてご尽力頂いた皆様に感謝申し上げます。

北陸・中部・東海ブロック学習交流集会

2024/11/30~12/1
(福井県福井市)

北陸・中部・東海ブロック学習交流集会は、福井駅前福井市観光物産館・福福茶屋横の福福小屋にて開催しました。福井高、愛知高、富山高、長野高、名高教より11名が参加しました。各組織より県、市との交渉についての報告や成果、新規採用者について、理科、学校司書の実習教員の職務内容や兼務の問題などを話し合いました。



愛知高からは「実験実習に必要な資格免許を公費でとらせてほしい、個人負担はおかしい」という要求にかかわって、全国学習交流集会で青森高より助言があり、その時にいただいた資料が提出されました。福井高も「青森高からの資料を県に提出すると反応があり公費での資格取得に今後の交渉の進展が伺える結果になりそう」との報告があり、今後の交渉の糸口になりそうな話を聞くことが出来ました。



2025年度開催予定の富山高へ福井高から横断幕の贈呈式をおこない1日目が閉会となりました。その後、組織代表者会議をおこないホテルで夕食交流会を開催し各組織との交流を深め楽しく交渉につながるヒントをえた1日となりました。

12月1日は越前蕎麦倶楽部にて蕎麦打ち体験をおこない、てきぱきとした講師の準備と段取りの良さを感心しながら素直な生徒(私たち)の頑張りにより蕎麦が完成、全員で越前おろしそばを食べて解散となりました。2日間福井市を満喫でき、たのしい学習交流集会でした。



関東・甲越ブロック学習交流集会

2024/12/14~15
(群馬県渋川市)

関東・甲越ブロック交流集会2024を群馬県渋川市の伊香保温泉で全教現業職員部(関東・甲越ブロック)と合同開催しました。感染症(インフルエンザ等)、学校業務、それぞれ自身の多忙などで参加者が当日前まで確定できず開催が厳しい状況になりましたが、全教実教部・常任委員会と現業職員部の絶大な協力もあり、2組織9名(内オンライン参加・6名)の参加で開催することができました。

討議では開催直前に決定したオンライン併用の時間(30分の短時間でしたが)を設け、会場参加ができなかった方、全教実教部常任委員の方、会場参加の方と熱心に実習教員部運動について話し合いました。オンライン終了



後、現業職員部の方と少数職種として一緒に問題点・課題などを討議・交流しました。

制度改革の問題について各県での状況を中心に討議をしました。現状での実習教員のおかれている世代感の問題、「教諭一元化」に対する「実習助手」制度改革の捉え方の違いがあることを確認しました。若い世代は以前からの「教諭一元化」運動として内実化よりも実質的な職務内容及び規定など、曖昧的な職務内容の見直しなどを求め、教諭への任用替えを希望せずに、目の前の待遇改善などの問題改善を求めています。そして、実習教員部の中に職務内容の違い（職業、理科、特別支援など）があり、特別支援学校においては、更に領域に分かれ仕事内容が大きく違い多様化していることも確認しました。その中で実教部として組合としての今後の運動・活動の在り方や方向性の課題整理が必要と感じ、運動の課題が制度改革の部分と重なることがあらためて共有できました。

現業職員部との討議では、少数職種、職務の多様化など実教部と共有できる問題があり、現場での職務外的な仕事、人手不足問題からの人事配置などの問題を交流しました。また、現業から実教への人事異動（任用替え）など現状の情報交換をしました。



2日目は現業職員部の方といっしょに、伊香保温泉周辺散策・見学・うどん打ち体験などほっとする時間を過ごしました。

今回の学習会は短い時間でありましたが、充実した討議がおこなわれたと思われます。しかしながら参加者が少なく、予算など考慮すると開催方法など新たなる課題（負の課題）も見えたブロック交流集会でした。



各道府県の実教部ニュースの交流について

2024年度の実教部 NEWS 号外で各道府県の実教部ニュースを紹介しています。ご覧になりましたか？



各道府県の組織で作成されている実習教員部ニュースを交流していこうと思います。ニュースを発行された時には、ぜひ全教実教部へも送付してください。

（メール：jikkyo@educas.jp）